

技術交流会報告

漁業委員会報第2号

與那嶺盛次

1. 課題
 2. 目的
 3. 交流会
 4. 日程
 5. 参加者
 6. 交流及び視察状況
- 海産魚類養殖について、日本漁業青年部と久慈漁業青年部との間で技術交流を実施した。
- 近年、本県においても漁協の養殖グループや養殖業者がマダイやハマエフキ、シマアジ等の海産魚類養殖に取り組むようになった。そこで、海産魚類養殖の先進地である奄美大島瀬戸内漁協青年部との養殖技術交流や情報交換を実施した。また、奄美大島にある主な魚類養殖会社を視察した。
- 奄美大島、瀬戸内漁協青年部
- 昭和63年7月4日 漫戸内漁協青年部魚類養殖視察（久慈地区）
- 昭和63年7月5日 漫戸内漁協青年部と魚類養殖技術交流及び情報交換
- 羽地漁協 屋良朝之、宮城秀謙
- 北谷町漁協 浜元盛伸、山口栄勝、湧稻国朝秀
- 北谷町役場 稲嶺盛徳係長、瑞慶覧功係
- 糸満漁協 金城利治販売課長
- 引率 與那嶺盛次普及員
- 昭和63年7月4日瀬戸内漁協青年部が久慈地区で実施しているマダイとシマアジの養殖を視察したあと、漁協事務所で養殖技術交流と情報交換を実施した。青年部は国庫補助により養殖施設を整備し養殖を実施していた。養殖場所は湾内で水深40~50mのところであった。餌料はマダイ用配合飼料を使用し、投餌は1日2回で自動給餌器を用いていた。マダイは少量づつしか食べないため自動給餌器は有効であるということだった。種苗は奄美にある養殖会社から購入していた。販売はポート売りという方法で生簀の魚を一括して県外の活魚船に移し販売していた。

翌日の7月5日は奄美大島にある主な魚類養殖会社の視察を実施した。養殖会社は種苗生産を実施して種苗の自給自足を図っており、養殖している魚種はマダイ、シマアジ、カンパチ、イシダイ、トラフグ、ヒラメ、クロマグロ、ハマエフキ、アイゴ類であった。ハマエフキは鮮魚

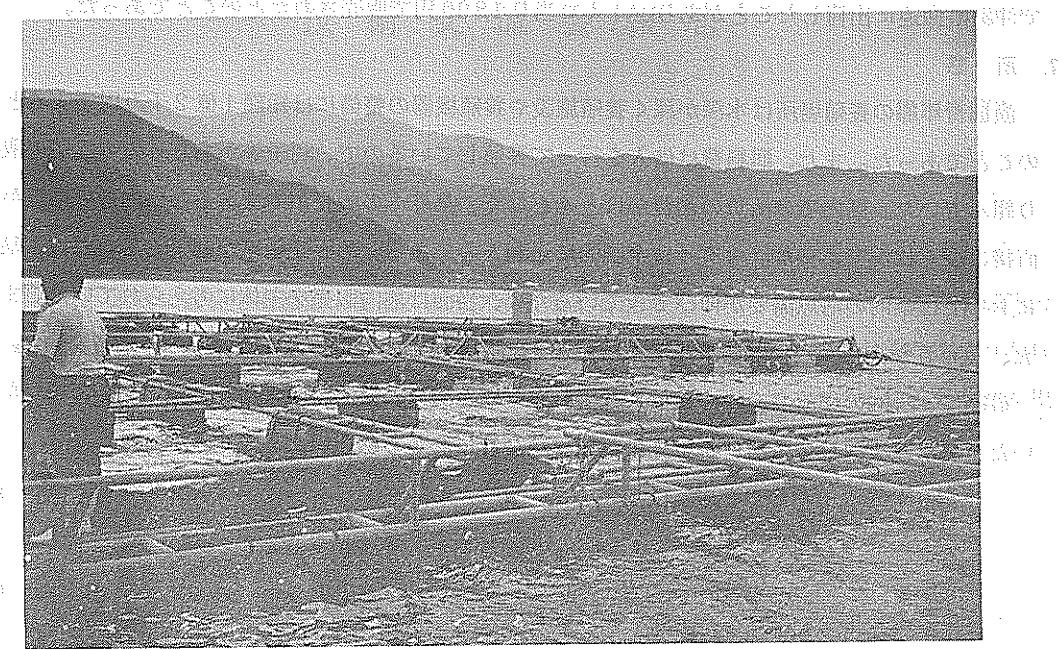
で沖縄県漁連に出荷したことがあり、1キロ当たり1,800円で販売されたとのことであった。

7. 所 感

漁協青年部の養殖場所は水深が深く養殖施設や養殖機器の整備には総額1億2千万円要するとのことであった。また、餌料費は借入を行って養殖しているので、利子等があり必死で養殖に取り組んでいた。島内での活魚の消費がほとんどなく、県外への販売が主であるため内地の市況が直接ひびく状況であった。マダイは全国的に過剩ぎみであるため販売価格が低下していた。本県においては県内の活魚需要が伸びてきているため、当面は島内販売を主体に考えられている。また、魚類養殖会社がハマフエフキを種苗生産し、県漁連市場に出荷されていたのを知り驚いた。

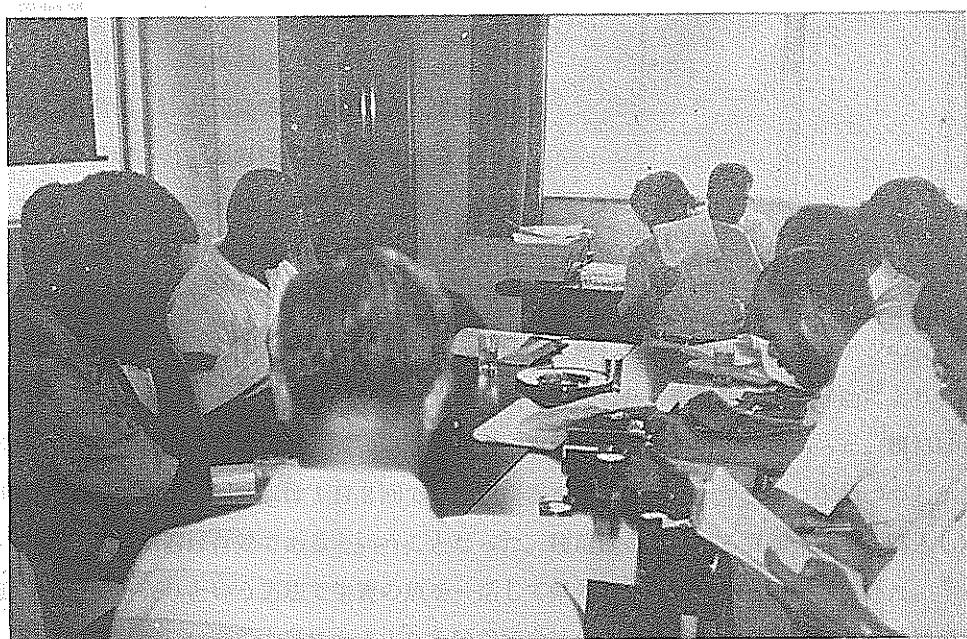
最後に、今回の交流会を快く受け入れていただいた瀬戸内漁協、同青年部、案内をしていただいた奄美水産業改良普及所、視察先の魚類養殖会社に心から感謝いたします。

（略）



図一 1 濑戸内漁協青年部員の小割生簀（マダイ、シマアジ）と自動給餌器

（写真提供：瀬戸内漁業組合連合会）



図一 2 濑戸内漁協青年部との交流会